

高校生の勉強と生活に関する意識調査報告書〔概要〕 —日本・米国・中国・韓国の比較—

平成 29 年 3 月 13 日

このたび、国立青少年教育振興機構では、平成 28 年度に高校生を対象として実施した標記の国際比較調査の結果を取りまとめたので報告する。

◆日本の高校生の主な特徴 () 内のページ数は、本概要の掲載ページである。

● 「一夜漬け」が多い (P3~P4)

日本の高校生は、勉強の仕方について「試験の前にまとめて勉強する」が多い。一方、「自分で整理しながら勉強する」「できるだけ自分で考えようとする」「教えられたとおりに勉強する」「参考書をたくさん読む」「勉強したものを実際に応用してみる」「教わったことをほかの方法でもやってみる」は米中韓に比べて低い。

また、勉強の時間をみても、学校の宿題とそれ以外の勉強を「しない」と回答した者の割合は、日本が米中韓に比べて高い。

● 受け身的な授業が中心となっている (P4~P5)

日本は、授業形態について「教科書に従って、その内容を覚える授業」が多い。いろいろな教材や教具を活用する授業や、生徒個人やグループで調べる授業などが米中韓に比べて少ない。

● 勉強の態度が消極的である (P6)

日本の高校生は、授業中の態度について「きちんとノートをとる」が多く、発言やグループワークへの参加に消極的である。また、「居眠り」がほかの3か国に比べて多い。ふだん、「予習、復習をする」も米中韓に比べて少ない。

● ICT (情報通信技術) の活用が少ない (P7)

日本の高校生は、米中韓に比べて、パソコンの利用、プログラミング、インターネットを利用して勉強することなど情報通信技術の活用が少ない。

● 体験学習が少ない (P8)

日本の高校生は、自然の中での体験活動、ボランティア活動、勤労体験活動、科学の実験や見学といった学習活動が米中韓に比べて少ない。また、これらの活動が好きだと回答した者も少ない。

● 控えめな人生目標 (P11~P12)

日本の高校生は、人生目標について多くの項目で肯定率が低い。特に「高い社会的地位に就くこと」「リーダーになること」「有名な大学に入ること」への願望が低い。

また、将来受けたい教育水準も、日本の高校生の6割強は4年制大学の進学に止まり、米中韓に比べて大学院志望が少ない。

【問い合わせ先】

国立青少年教育振興機構 青少年教育研究センター 〒151-0052 東京都渋谷区代々木神園町 3-1
TEL : 03-6407-7740, 7742 FAX : 03-6407-7689 Email kenkyu-soumu@niye.go.jp
報告書掲載ウェブページ http://www.niye.go.jp/kenkyu_houkoku/contents/detail/i/114/

◆調査概要

1) 調査の目的

日本の高校生の学習意識、ICT（情報通信技術）の活用や学校生活の実態、及び将来への展望などを把握する。また、米国、中国、韓国と比較して、日本の特徴や課題を分析し、青少年の教育の向上に資する基礎データを提示する。

2) 調査方法等

調査の実施時期、調査対象などは次のとおりである。なお、4か国とも普通科高校を対象としている。

	日本	米国	中国	韓国
調査機関	国立青少年教育振興機構	BuzzHunter(委託)	中国青少年研究センター	韓国青少年活動振興院
調査時期	2016年9月～11月	2016年9月～11月	2016年9月～11月	2016年9月～11月
学校数	18	16	24	36
調査地域	北海道 岩手県 宮城県 茨城県 東京都 神奈川県 山梨県 長野県 大阪府 兵庫県 岡山県 山口県 愛媛県 福岡県 鹿児島県	California Connecticut Georgia Hawaii Illinois Indiana Louisiana Michigan Minnesota Mississippi New Hampshire North Carolina Oklahoma Pennsylvania Virginia	北京市 四川省成都市 湖南省常德市 広東省仏山市 遼寧省瓦房店市 甘肅省臨洮県	ソウル 京畿 仁川 江原 大田 世宗 忠北、忠南 大邱 釜山 蔚山 慶北、慶南 光州 全北、全南 済州
調査方法	集団質問紙法	集団質問紙法	集団質問紙法	集団質問紙法
有効回答者数(票)	2015	1540	2499	1800

3) 調査内容

勉強の態度、勉強の時間と方法、勉強のプレッシャー、得意なこと、成績、ICT（情報通信技術）の活用、体験学習、学校生活、将来受けた教育の水準、人生目標など。

4) 調査対象者の基本属性

		日本	米国	中国	韓国
性別	1. 男	48.0	47.6	46.7	47.2
	2. 女	51.6	51.5	53.2	52.8
	無回答	0.4	0.9	0.1	0.0
学年	1. 高1	33.6	34.7	34.9	50.0
	2. 高2	33.3	33.4	31.5	50.0
	3. 高3	33.0	31.1	33.4	0.0
	無回答	0.0	0.8	0.2	0.0
	実数(人)	2015	1540	2499	1800

◆ 調査結果からみた日本の高校生の特徴

1 「一夜漬け」の勉強法

勉強の仕方では、日本の高校生が最も多いのは、「試験の前にまとめて勉強する」で、12項目の中で群を抜いている。一方、「自分で整理しながら勉強する」「できるだけ自分で考えようとする」「教えられたとおりに勉強する」「参考書をたくさん読む」「勉強したものを実際に応用してみる」「教わったことをほかの方法でもやってみる」が米中韓に比べて低い(図1)。

勉強の時間をみても、学校の宿題とそれ以外の勉強を「しない」と回答した者の割合は、日本が米中韓に比べて高い(図2～図3)。

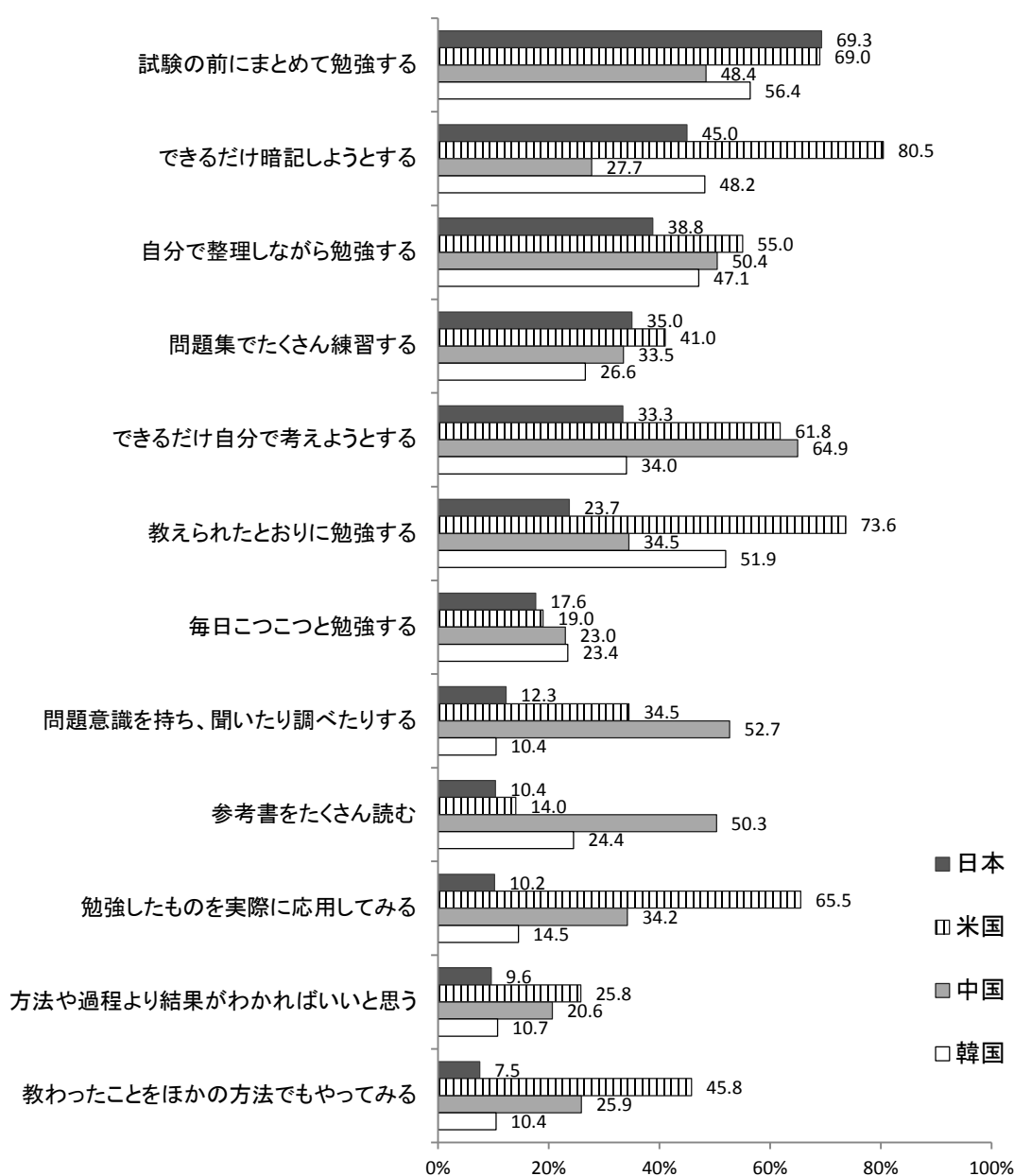


図1 勉強の仕方

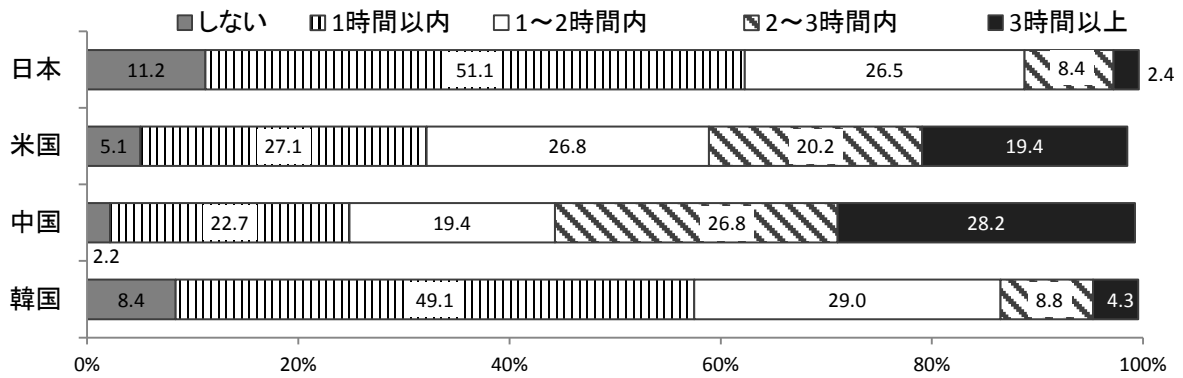


図2 平日に学校の宿題をする時間はどのくらいですか
 (「無回答」の割合を表記していない。以下同様。)

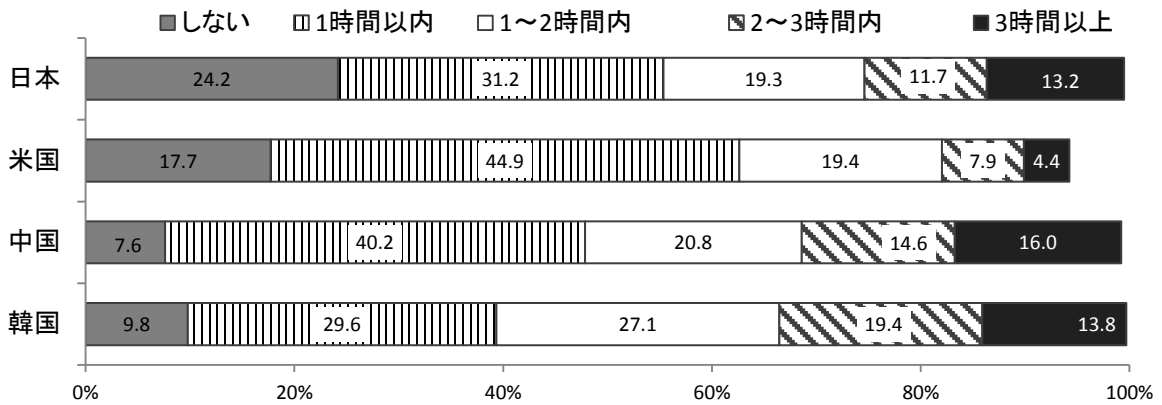


図3 平日に学校の授業と宿題以外に、どのくらい勉強しますか(塾なども含む)

2 受け身的な授業が中心

日本の高校生は、「教科書に従って、その内容を覚える授業」が多いと感じている反面、いろいろな教材や教具を活用する授業、生徒個人やグループで調べる授業などが少ないと感じている(図4~図5)。

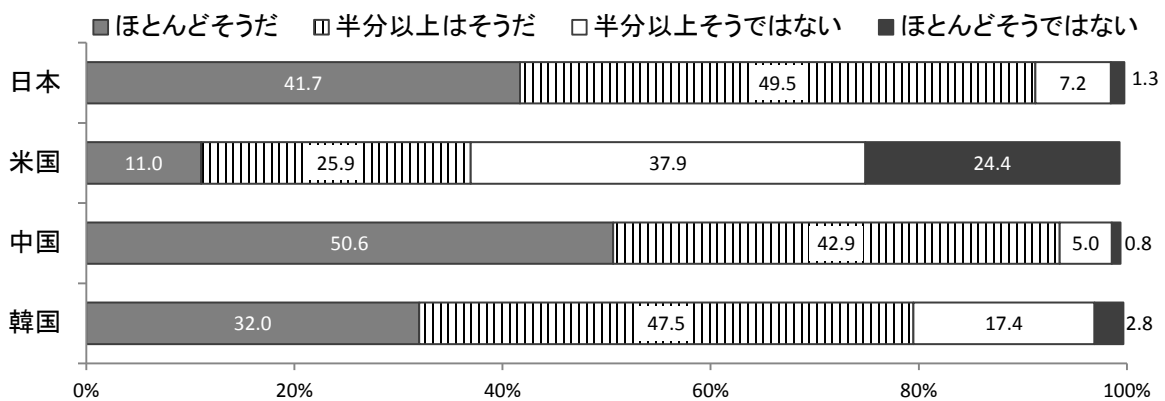


図4 教科書に従って、その内容を覚える授業

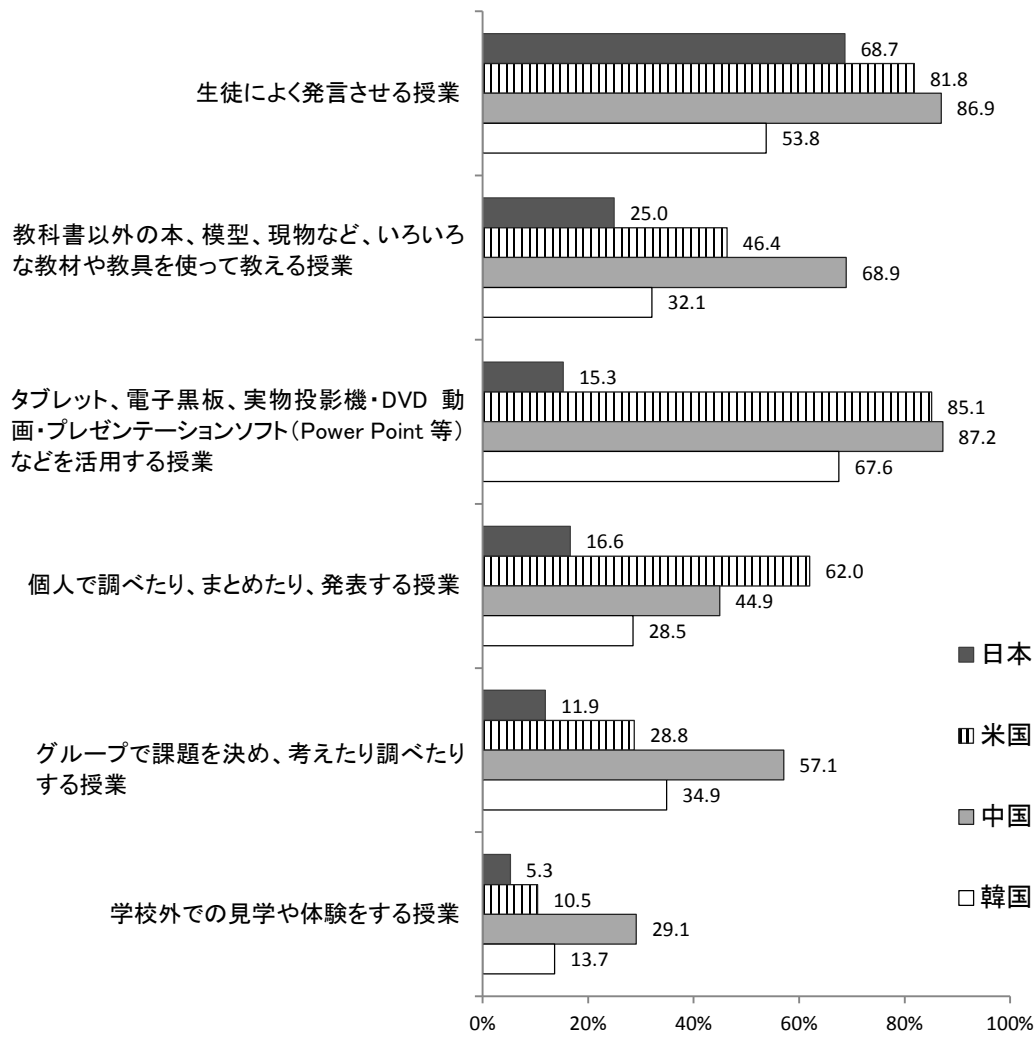


図5 授業の進め方(「ほとんどそうだ」「半分以上はそうだ」と回答した者の割合)

3 勉強の態度が消極的である

日本の高校生は、授業中、「きちんとノートをとる」が多く、発言やグループワークへの参加に消極的である。また、「居眠り」がほかの3か国に比べて多い。ふだん、「予習、復習をする」も米中韓に比べて少ない（図6）。

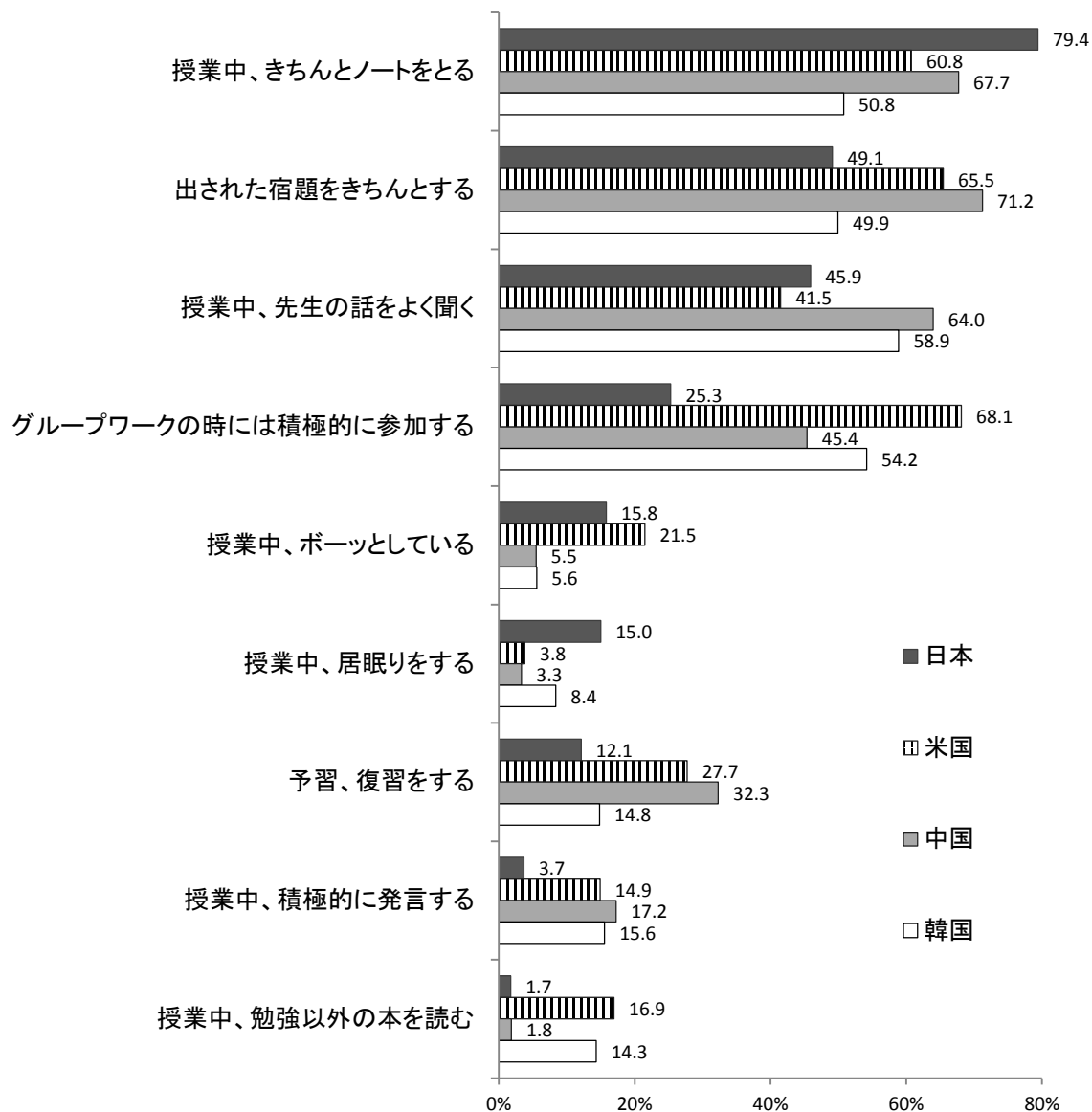


図6 ふだんの勉強で、上記のようなことがどのくらいあるか（「よくある」と答えた割合）

4 ICT（情報通信技術）の活用が少ない

日本の高校生は米中韓に比べて、パソコンの利用、プログラミング、インターネットを利用して勉強することなど情報通信技術の活用が少ない（図7～図8）。

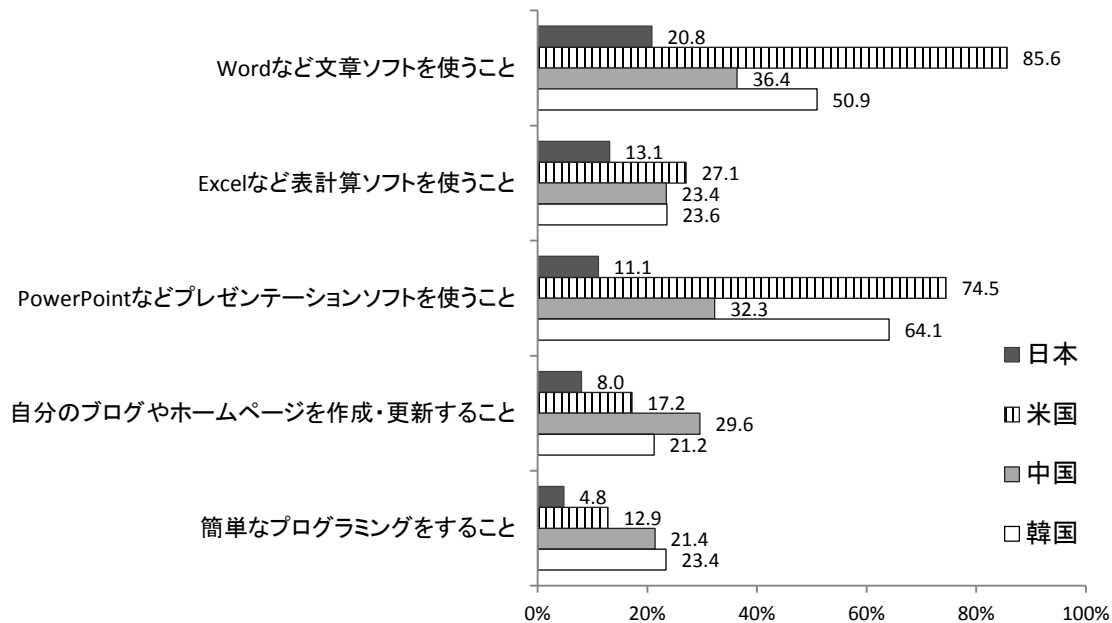


図7 ICTの活用（「よくする」「時々する」と回答した者の割合）

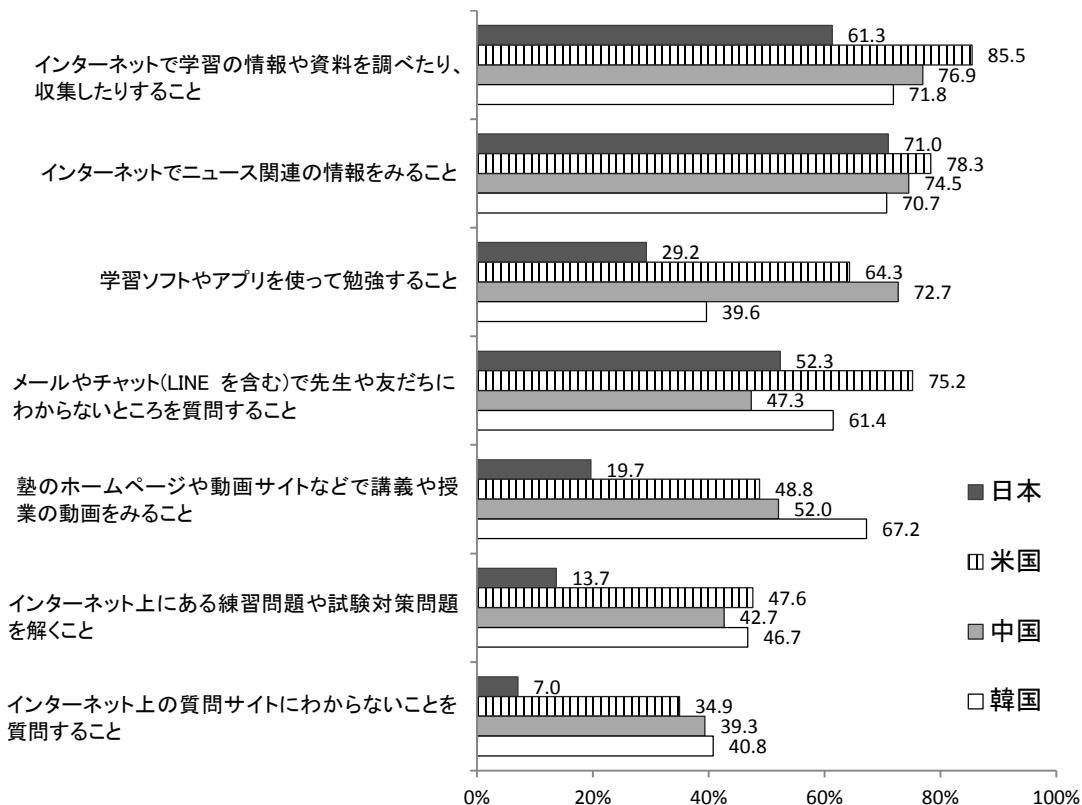


図8 インターネットの活用（「よくする」「時々する」と回答した者の割合）

5 体験学習が少ない

日本の高校生は、自然の中での体験活動、ボランティア活動、勤労・職業体験活動、科学の実験や見学といった学習活動が米中韓に比べて少ない。また、これらの活動が好きだと回答した者も少ない（図9～図10）。

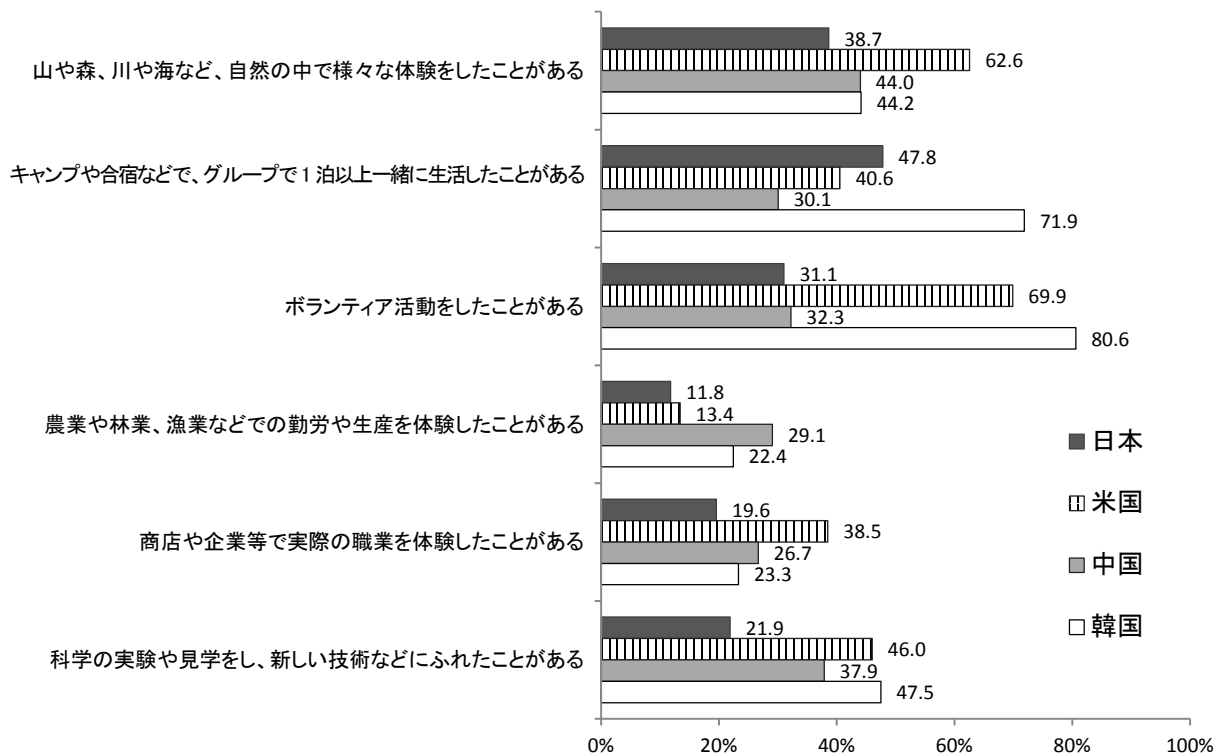


図9 この1年間でしたことがあること

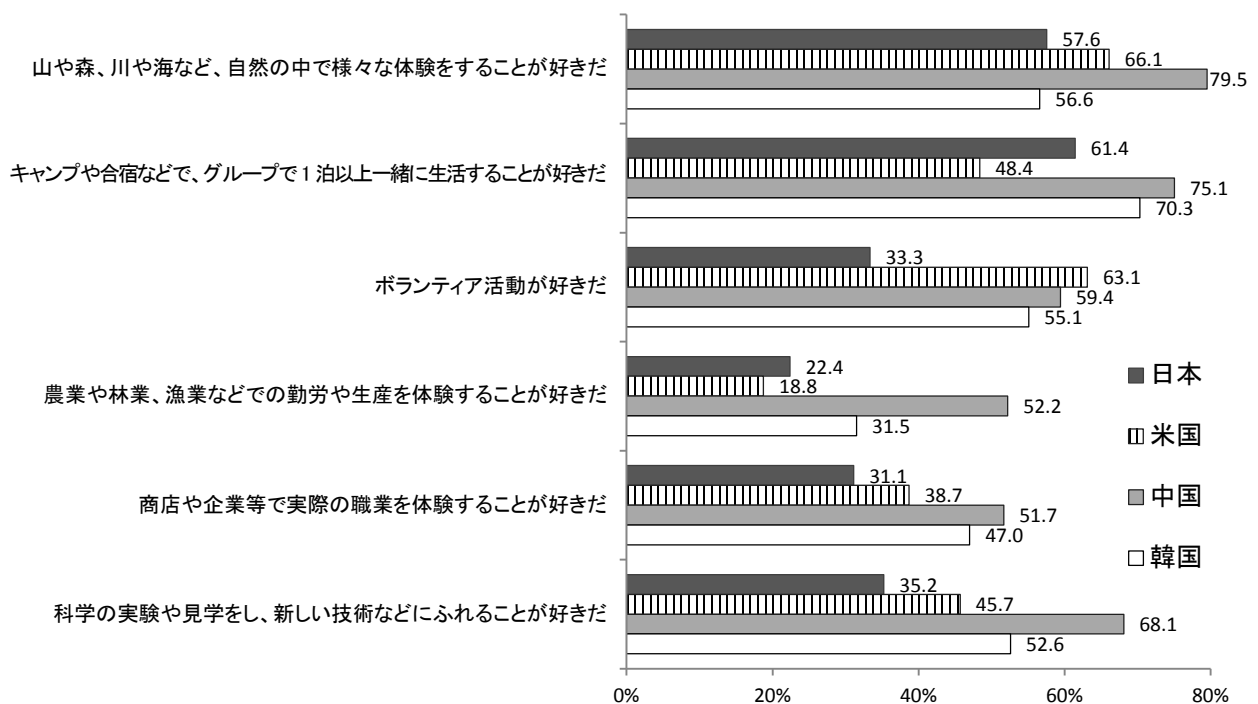


図10 その活動が好きだ

6 学校生活が「楽しい」

日本の高校生の約8割は「学校が楽しい」と回答し、その割合は4か国中最も高い。
 学習や学校生活において、日本の高校生は、部活動への参加を重視しているが、先生を尊敬することや、先生の指導に従ってしっかり勉強すること、クラスのリーダーになることをあまり重要視していない。(図11～図13)。

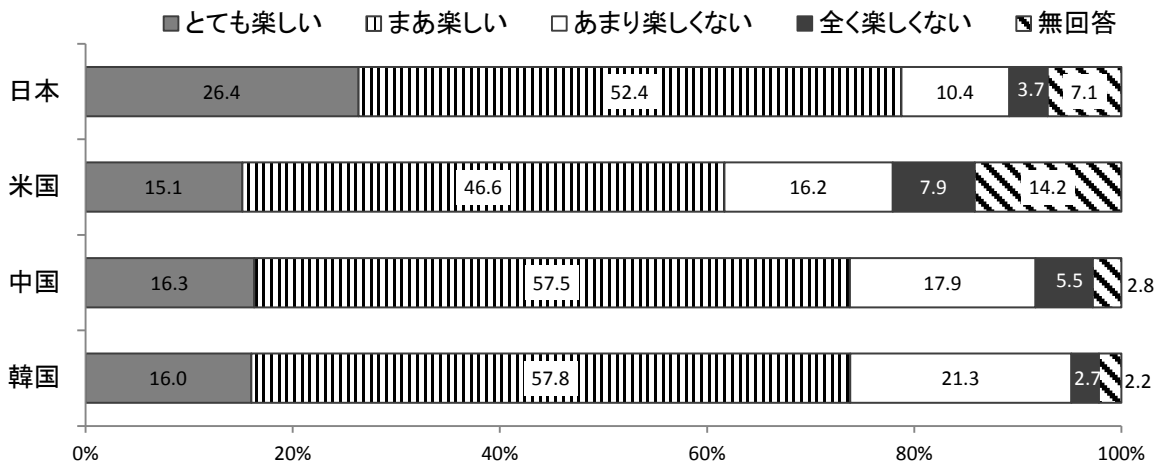


図11 今の学校生活が楽しいか

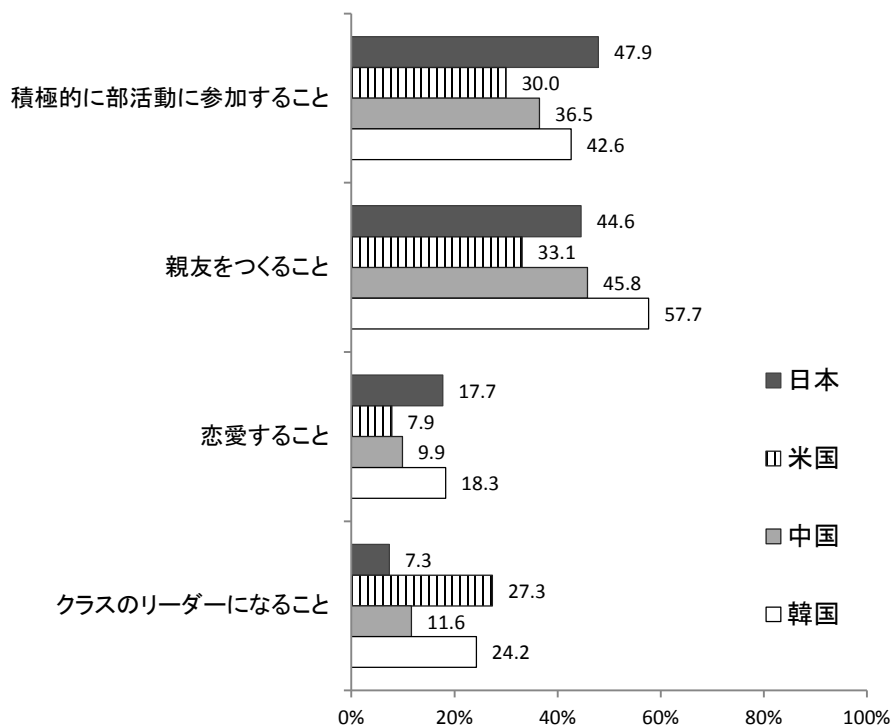


図12 学習や学校生活でどんなことが大切だと思うか(「とても重要」と答えた割合)

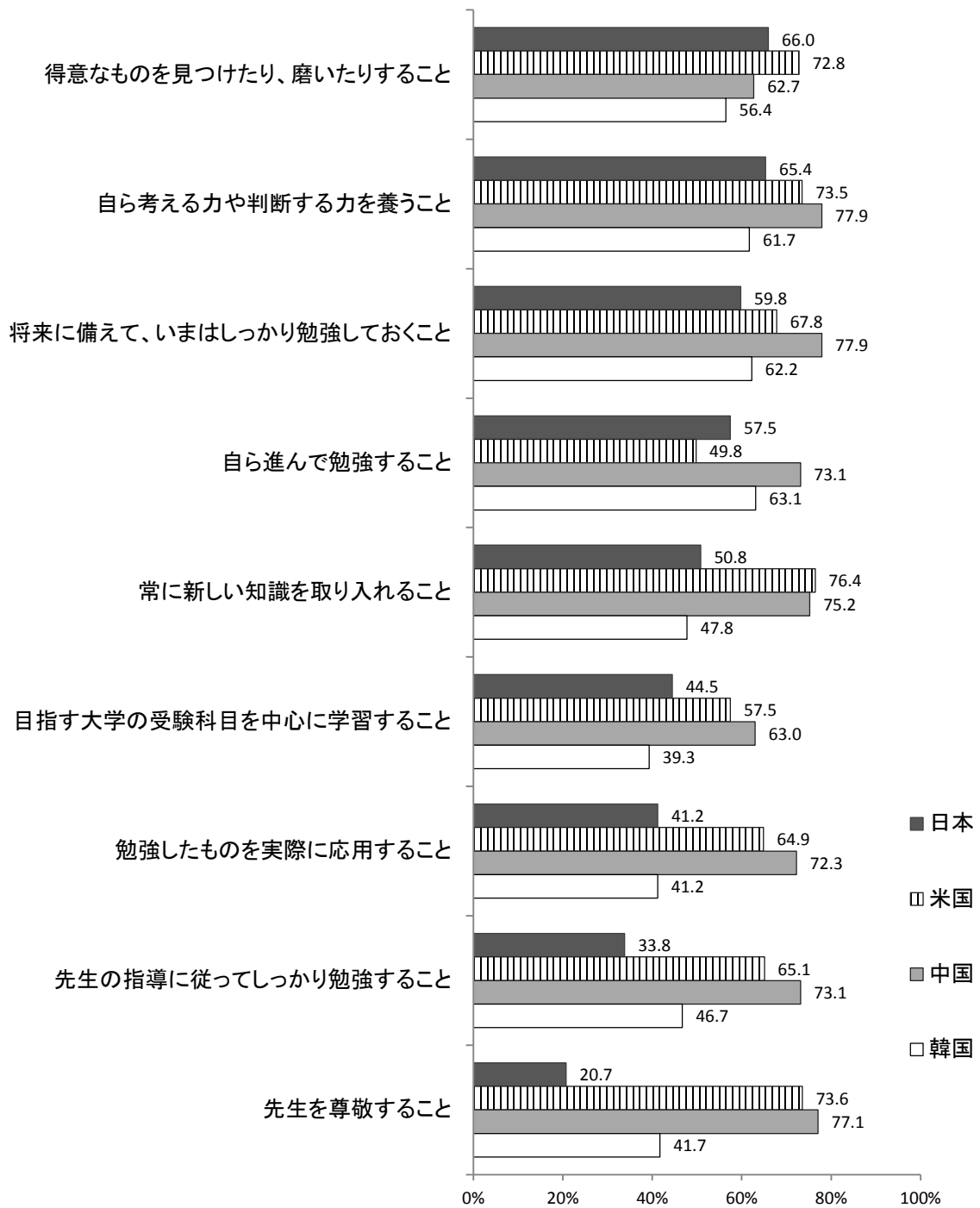


図 13 学習や学校生活でどんなことが大切だと思うか(「とても重要」と答えた割合)

7 控えめな人生目標

将来、受けたい教育の水準では、日本の高校生の6割強は「四年制大学まで」と回答し、4か国の中で最も多い。米中の高校生の4割強は「大学院まで」（「修士」＋「博士」）と希望している（図14）。

また、日本の高校生は、「高い社会的地位に就くこと」「リーダーになること」「有名な大学に入ること」といった将来に対する願望が低い（図15）。

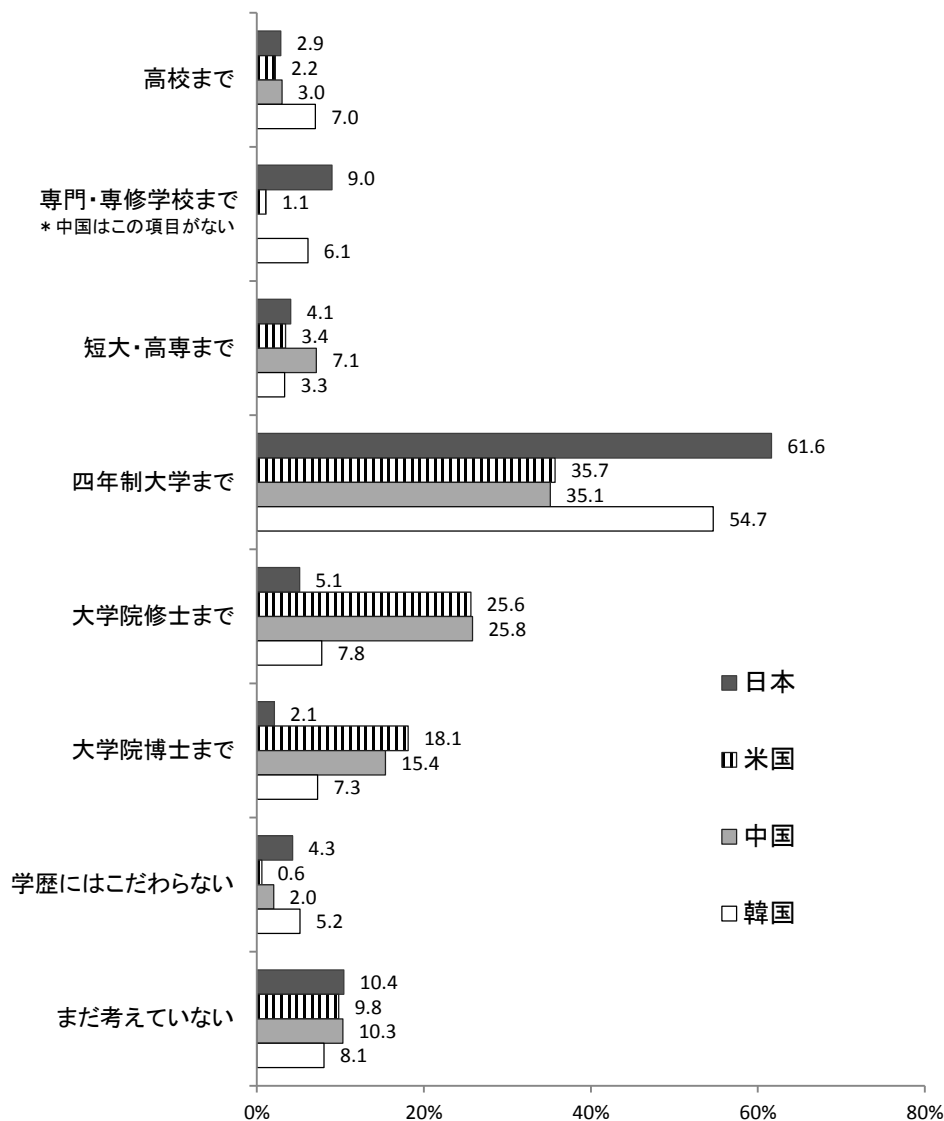


図14 将来、どの程度の教育を受けたいと思いますか

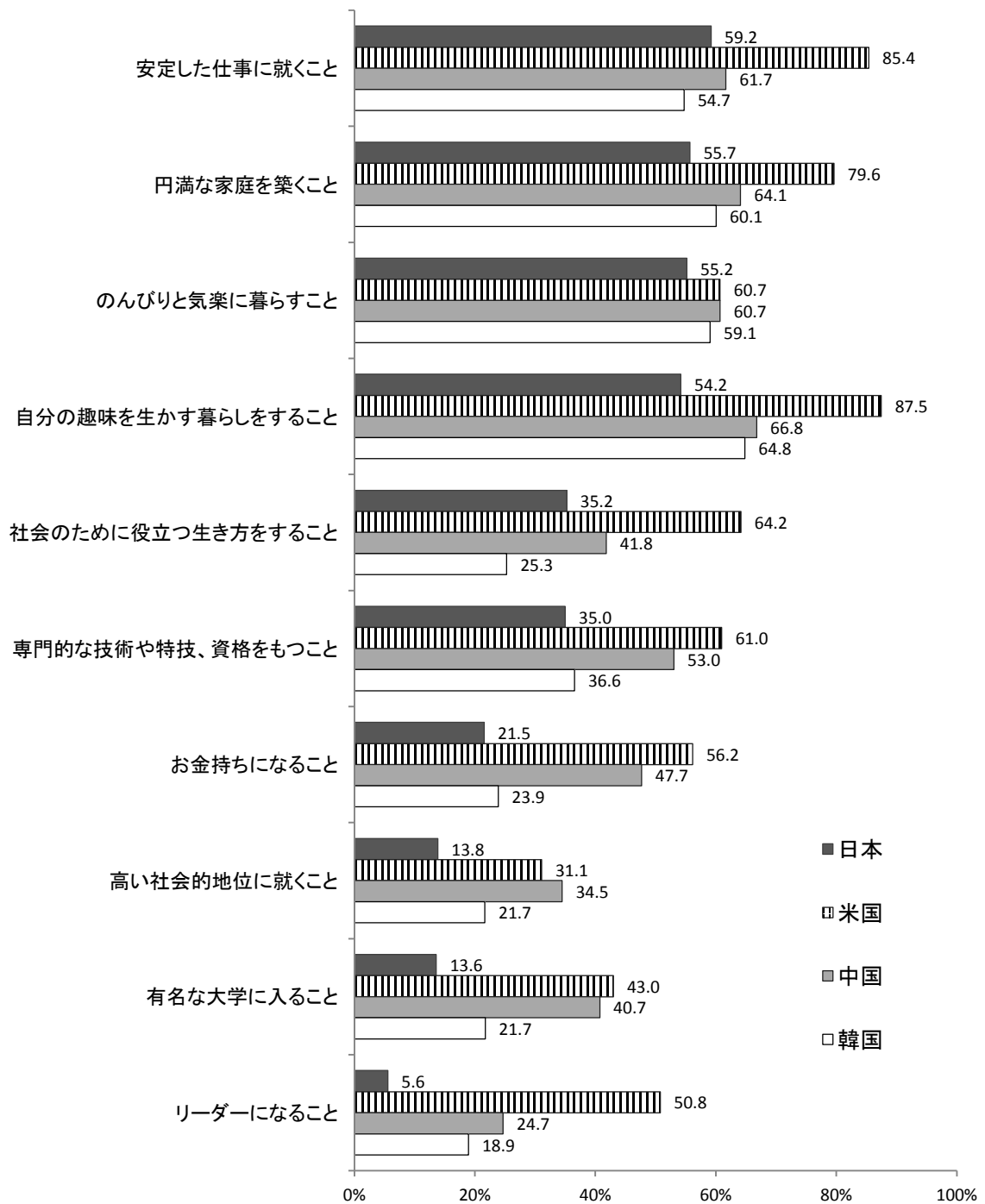


図 15 将来、どのような目標をもっているか(「とてもそう思う」と答えた割合)

8 経年比較にみる高校生の勉強と生活意識

本調査の一部の内容は、財団法人日本青少年研究所が2009年に実施した「高校生の勉強に関する調査」とほぼ同一であることから、当該調査との経年的な変化を見てみる。

(4か国の高校生を対象とした調査は、平成25年度から国立青少年教育振興機構が継承している。)

1) 勉強時間が多くなっている

日本の高校生は7年前と比べて、学校の宿題や学校の授業と宿題以外に「2時間以上」勉強すると回答した者の割合が高くなり、反対に「しない」と回答した割合が1割以上低くなっている(図16~図19)。

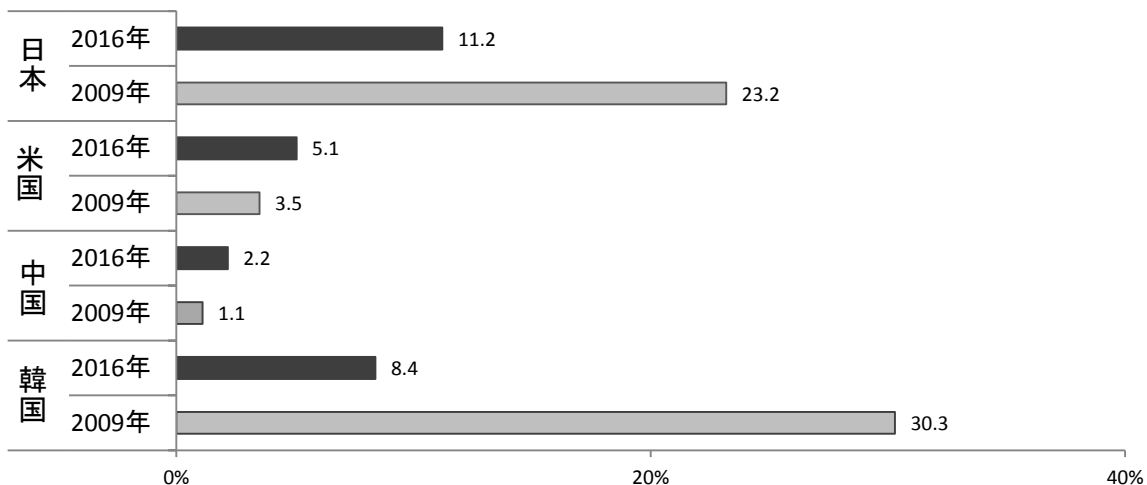


図16 平日に、学校の宿題を「しない」

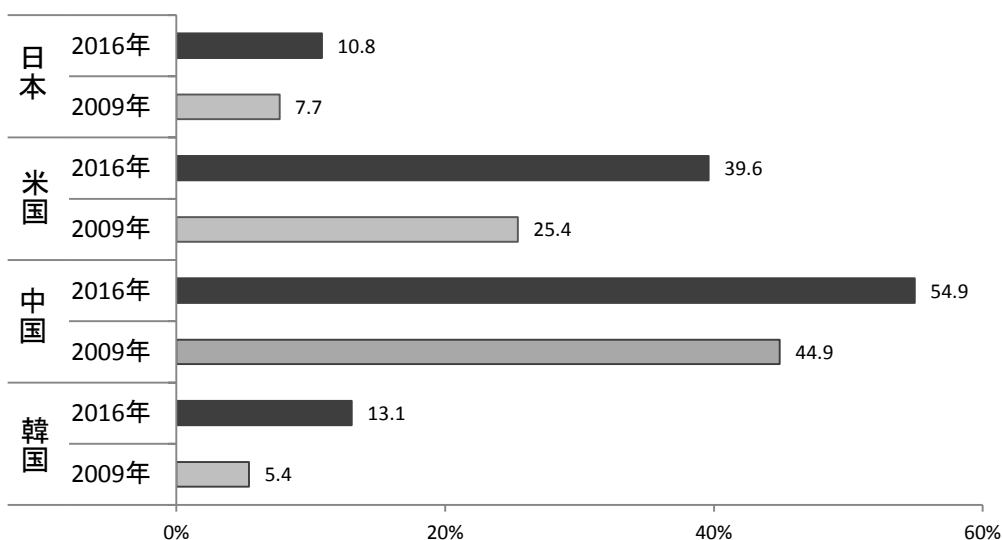


図17 平日、学校の宿題をする時間は「2時間以上」

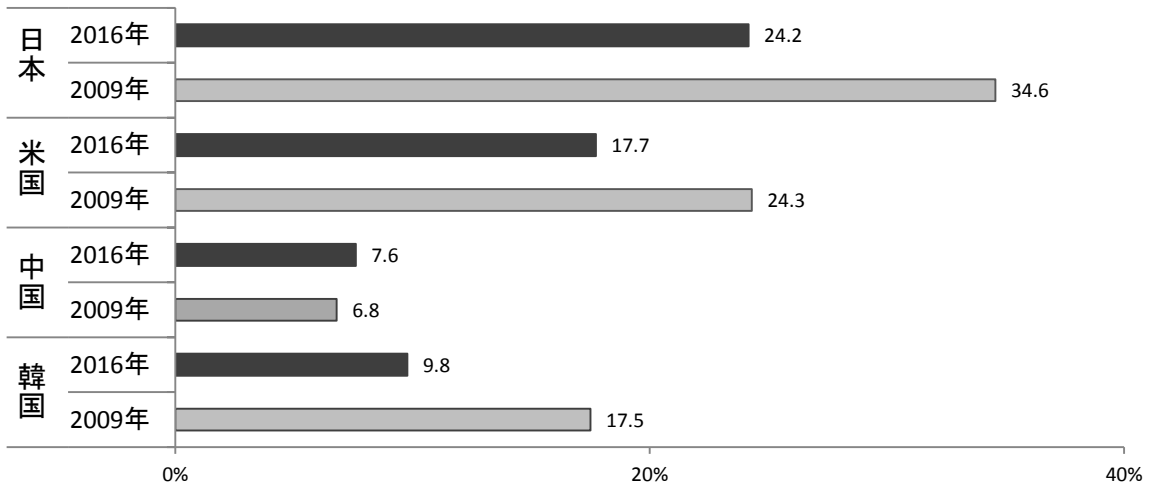


図 18 平日、学校の授業と宿題以外に、勉強しない

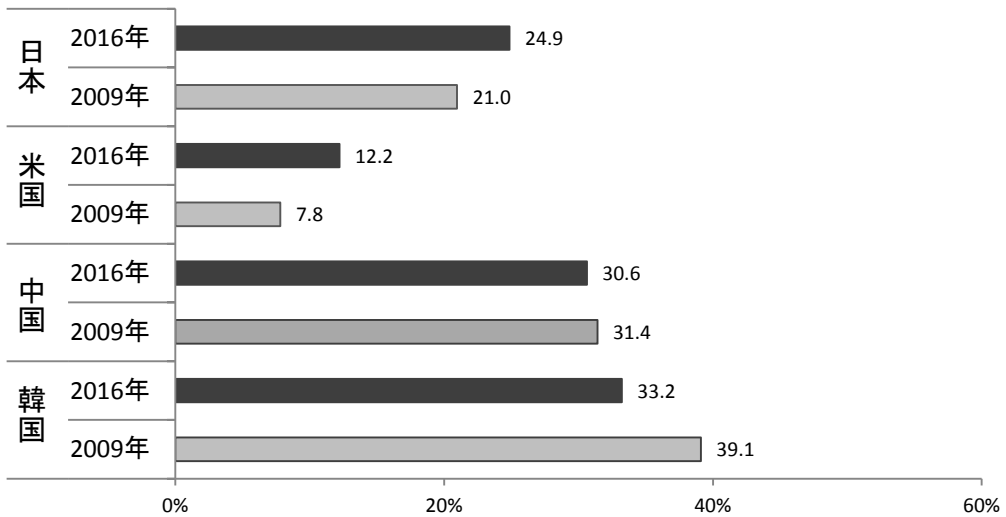


図 19 平日、学校の授業と宿題以外に、「2時間以上」勉強する

2) 「一夜漬け」と「能動型」の勉強法とも増加

勉強の仕方について、日本の高校生は、「試験の前にまとめて勉強する」「問題集でたくさん練習する」「問題意識を持ち、聞いたり調べたりする」「できるだけ自分で考えようとする」の割合が高くなっている（図 20）。

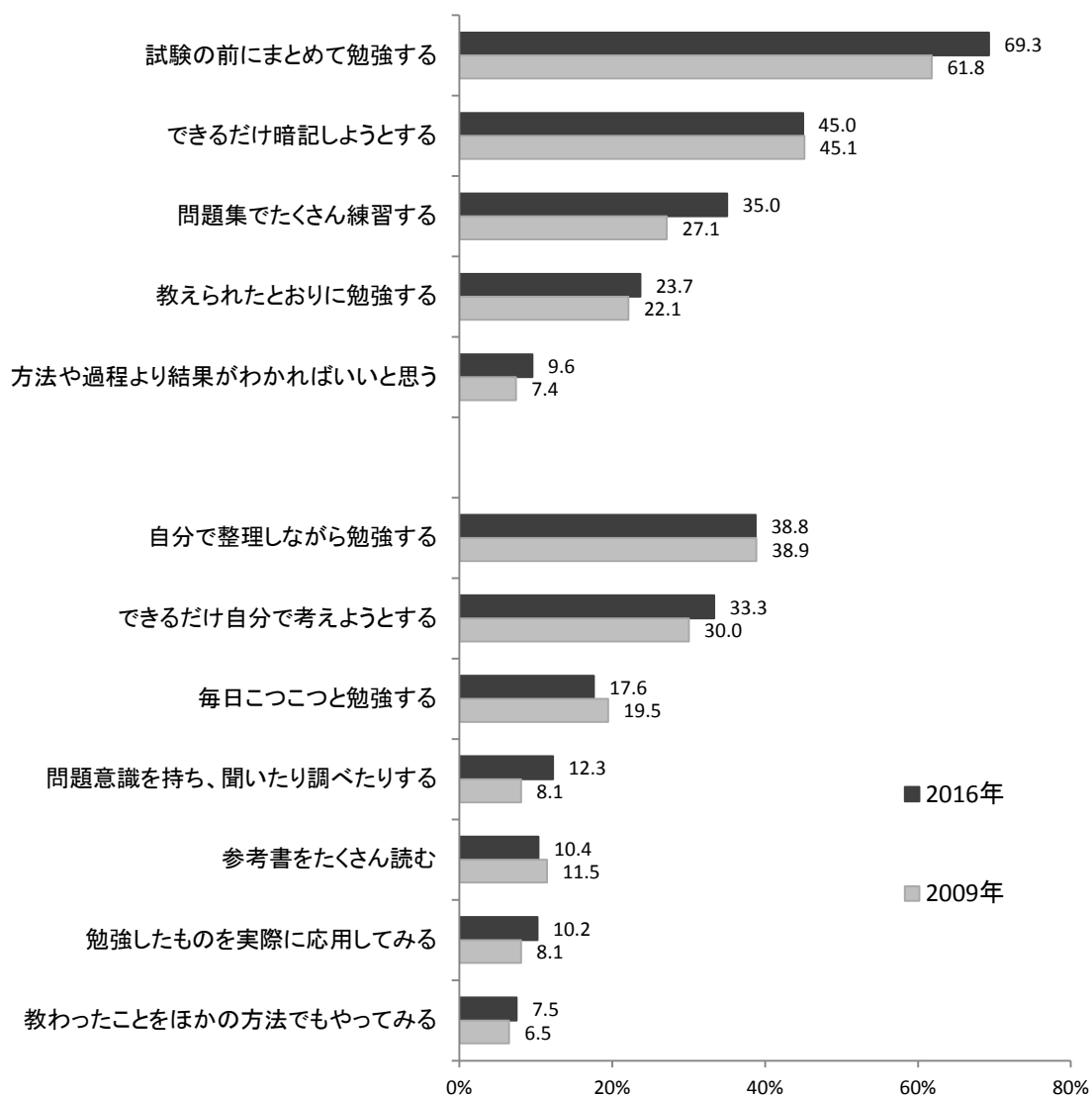


図 20 勉強の仕方(日本)

3) 生徒の発言やグループワークを重視する授業が多くなったと感じている

日本の高校生は、「グループで課題を決め、考えたり調べたりする授業」「生徒によく発言させる授業」「問題集でたくさん練習する授業」が増えていると感じている。「個人で考えたり、調べたりする授業」「いろいろな教材や教具を使う授業」はあまり変わらなかった（図 21～図 26）。

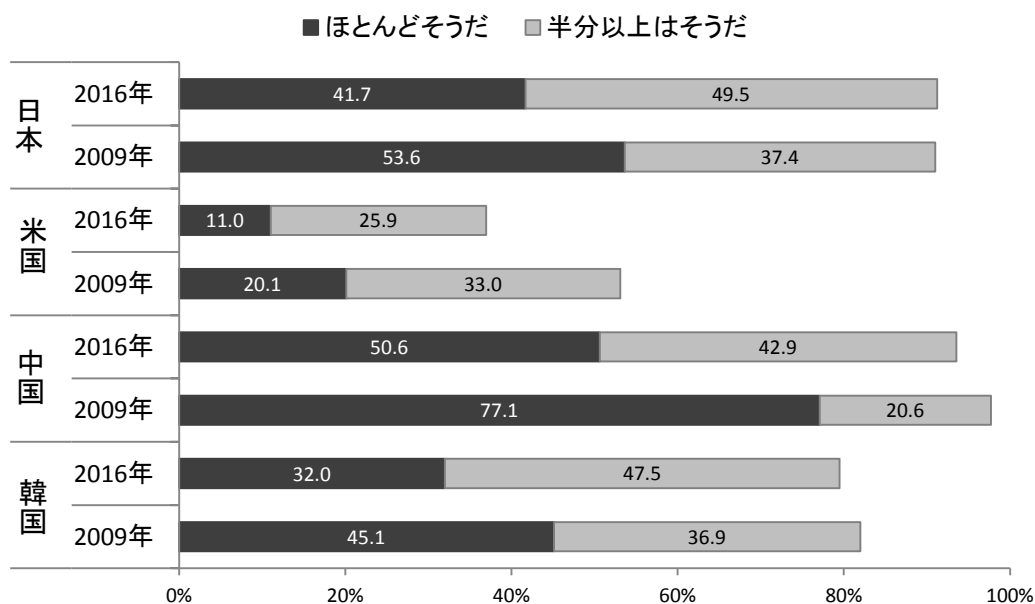


図 21 教科書の内容をきちんと教え、覚えさせる授業

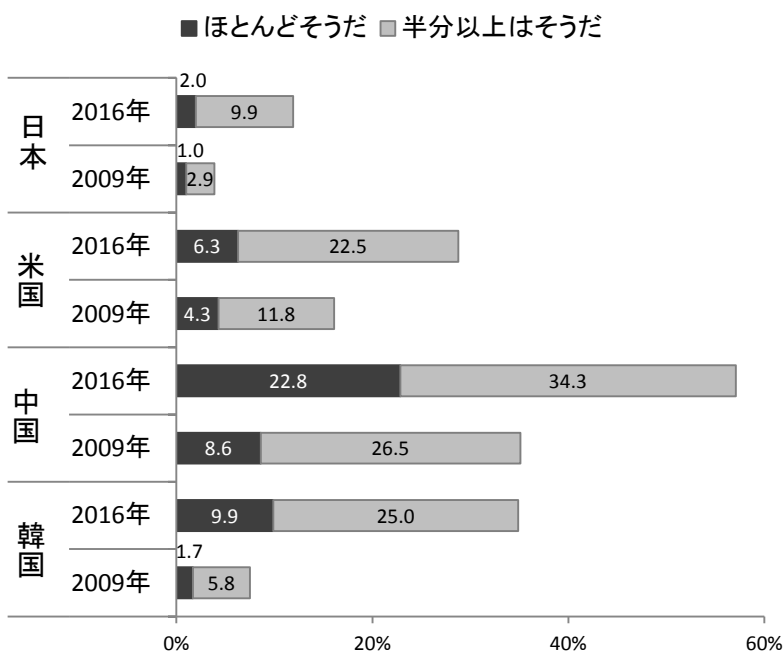


図 22 グループで課題を決め、考えたり調べたりする授業

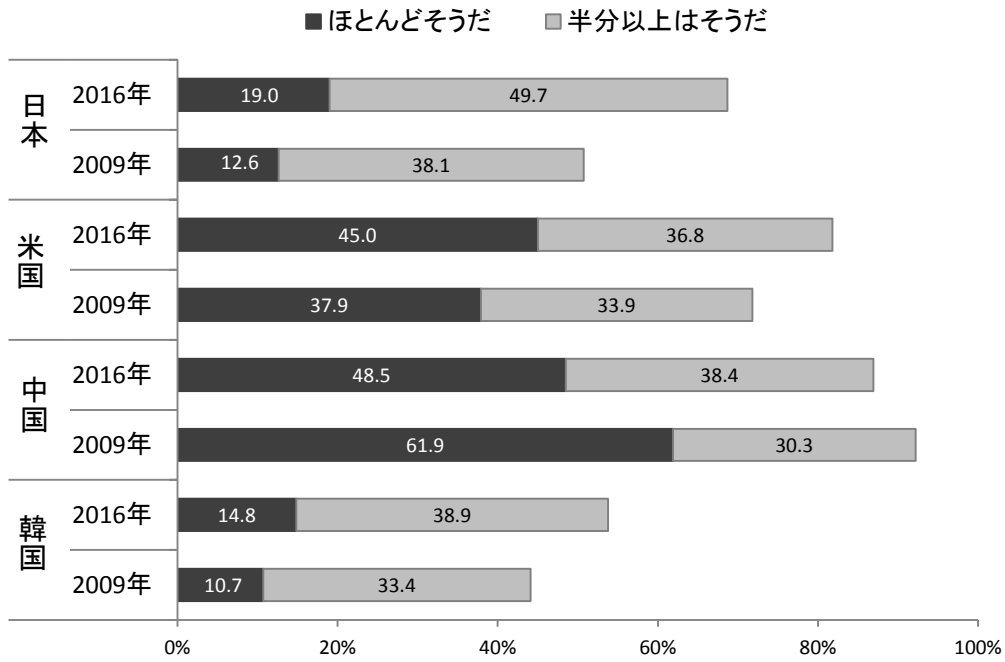


図 23 生徒によく発言させる授業

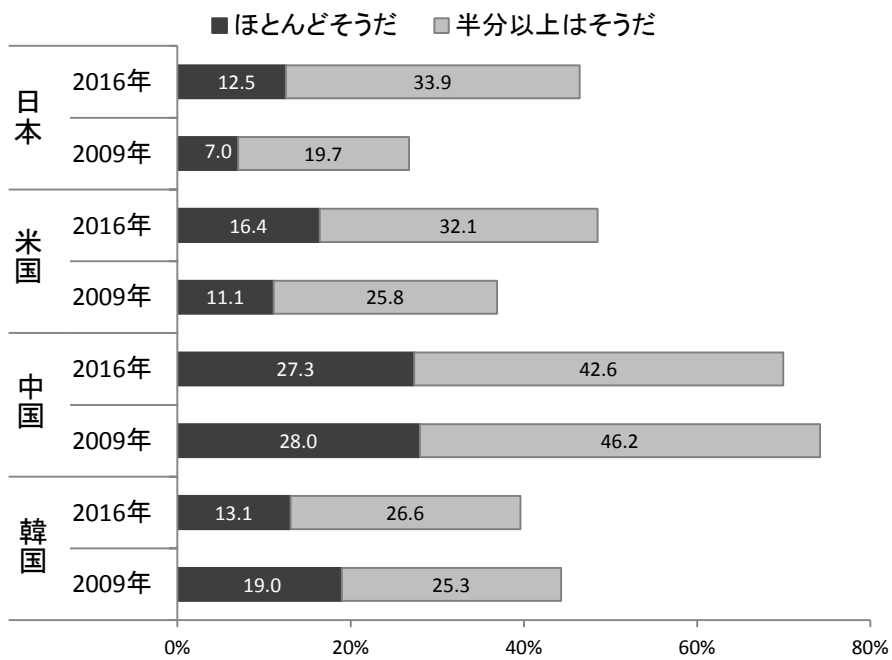


図 24 問題集でたくさん練習する授業

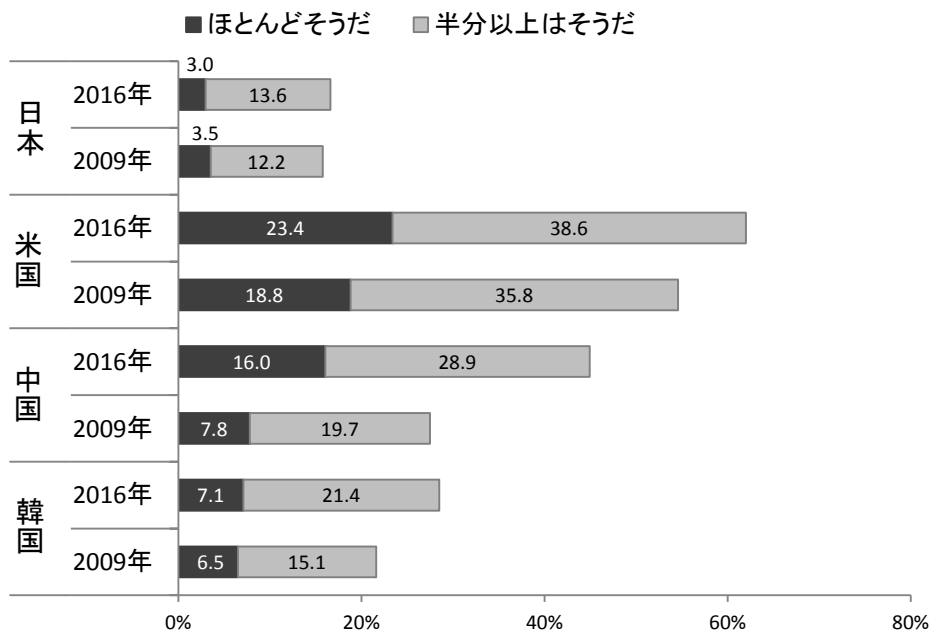


図 25 個人で何かを考えたり、調べたりする授業

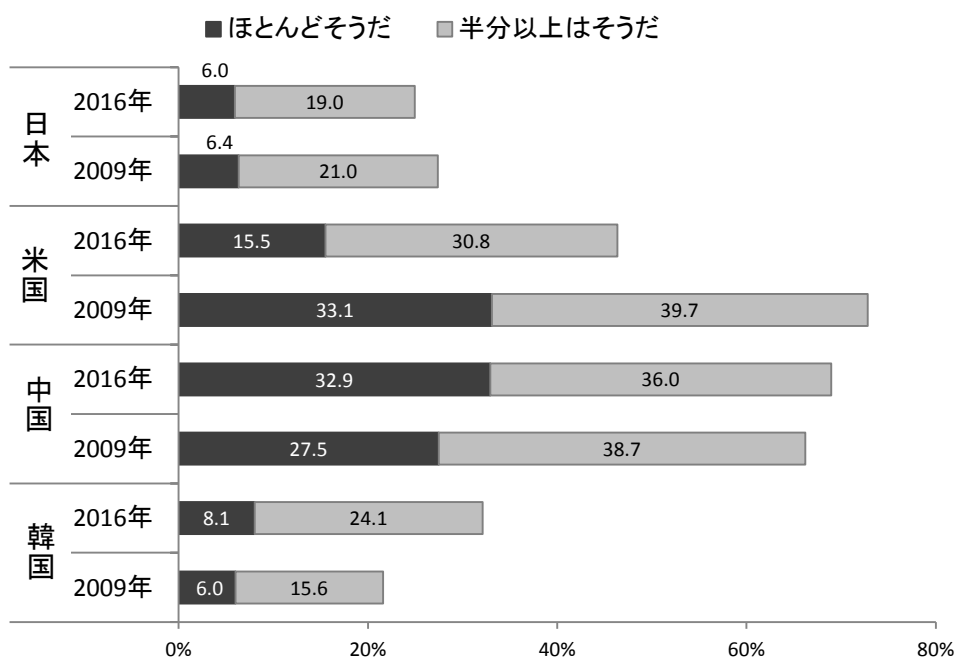


図 26 いろいろな教材や教具を使って分かりやすく教える授業

4) 学習や授業中の態度や行動

日本の高校生は、「授業中、積極的に発言する」「出された宿題をきちんとする」「予習、復習をする」について「よくある」「ときどきある」と回答した者が増えている一方で、「授業中、居眠りをする」「授業中、ボーッとしている」も増えている（図 27～図 31）。

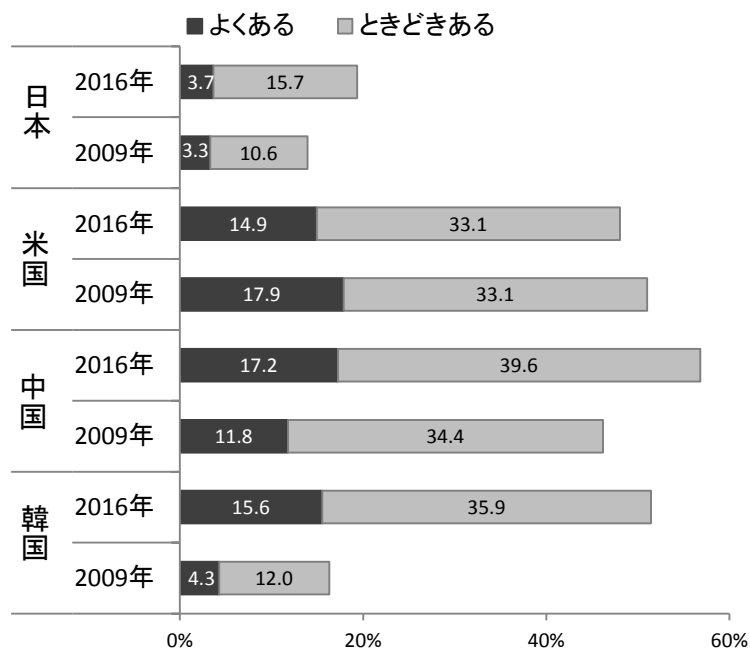


図 27 授業中、積極的に発言する

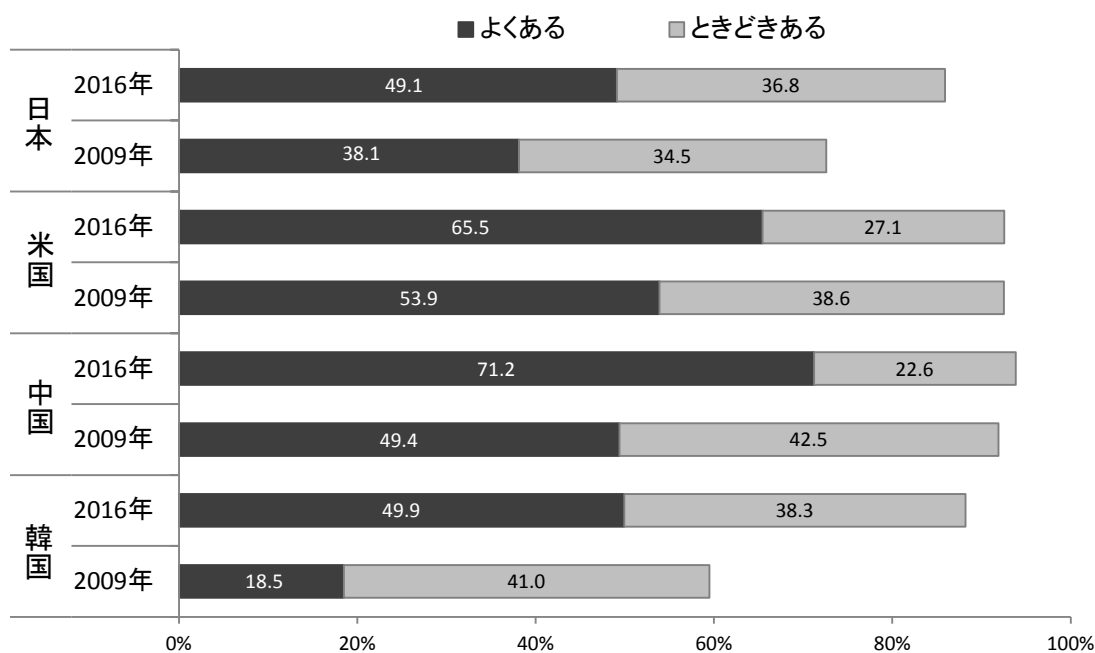


図 28 出された宿題をきちんとする

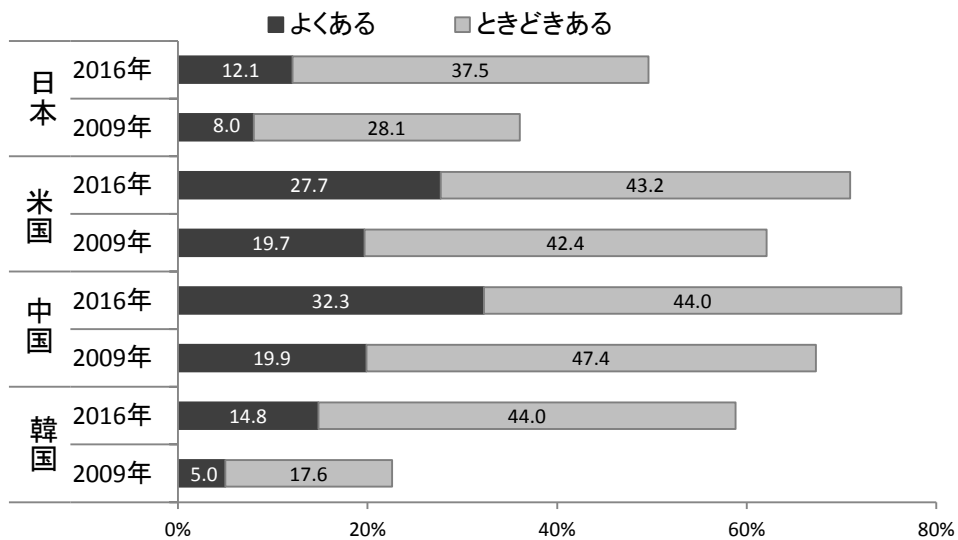


図 29 予習、復習をする

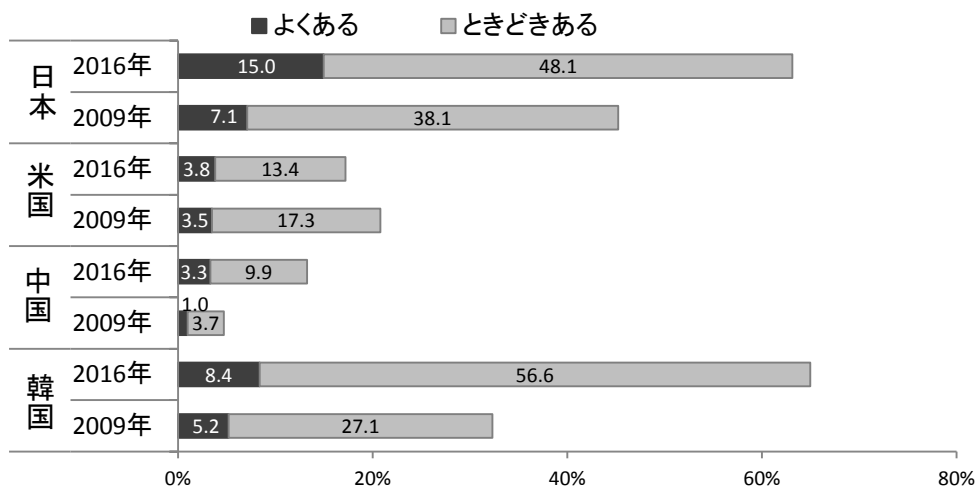


図 30 授業中、居眠りをする

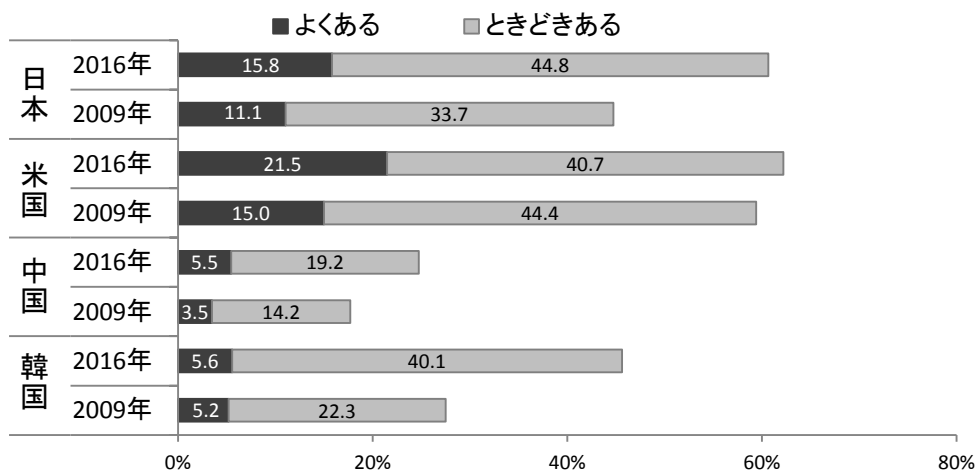


図 31 授業中、ポーツとしている

5) 授業の内容がわからない場合、「そのままにしておく」が減少

授業の内容がわからない場合、日本の高校生は、「ネットなどで調べる」が大きく増加し、「そのままにしておく」「学校の先生に聞く」「本や参考書などで調べる」が減少している（図 32）。

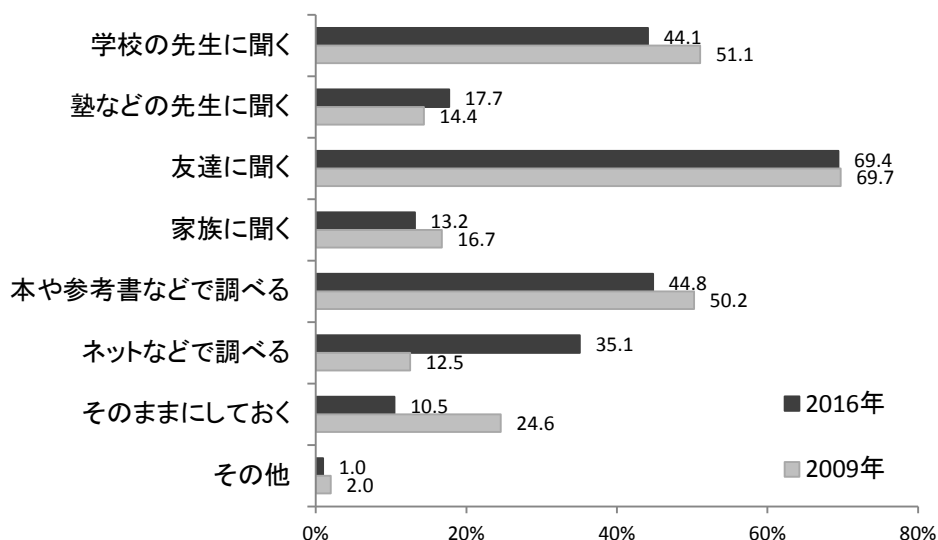


図 32 授業の内容がわからない場合の対応(日本)

6) 先生の指導、クラスのリーダーになることを重視するようになった

学習や学校生活で大切なことについて、日本の高校生は、「先生の指導に従ってしっかり勉強すること」「目指す大学の受験科目を中心に学習すること」「クラスのリーダーになること」について「とても重要だ」「まあまあ重要だ」と回答した者の割合が高くなっている（図 33～図 35）。

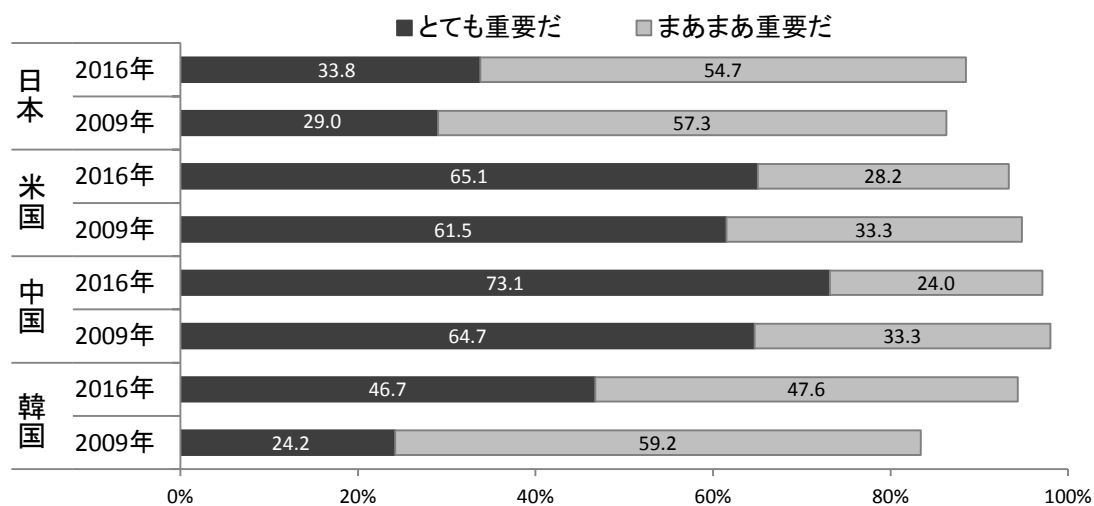


図 33 先生の指導に従ってしっかり勉強すること

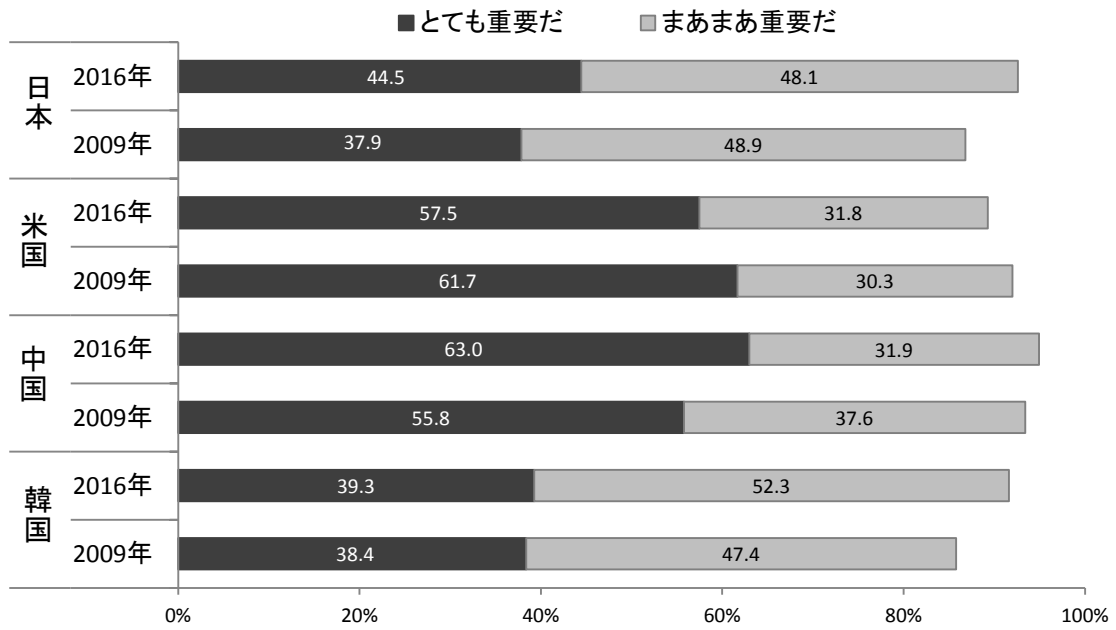


図 34 目指す大学の受験科目を中心に学習すること

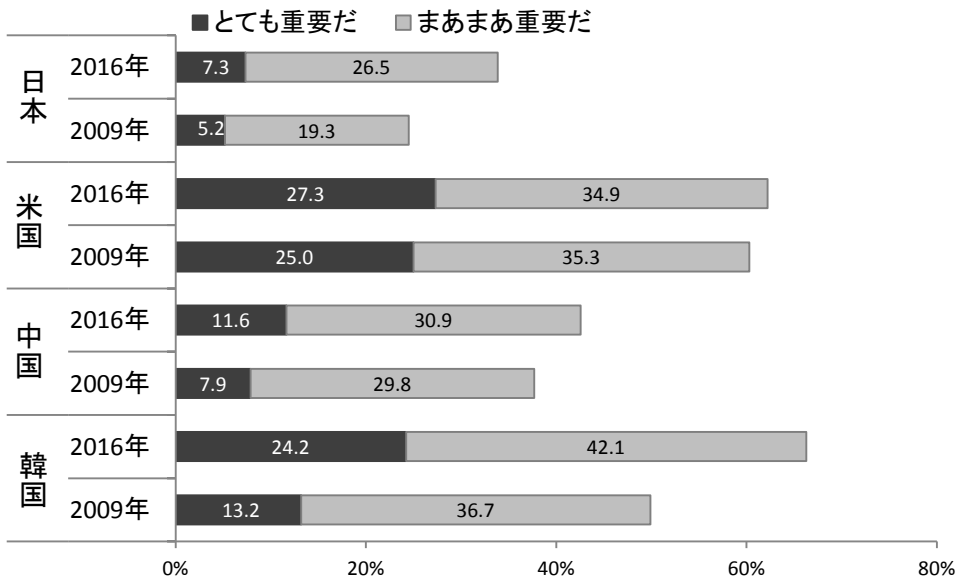


図 35 クラスのリーダーになること

7) 人生目標

日本の高校生は「社会のために役立つ生き方をすること」の割合が年々高くなり、「円満な家庭を築くこと」が低くなっている（図 36～図 37）。

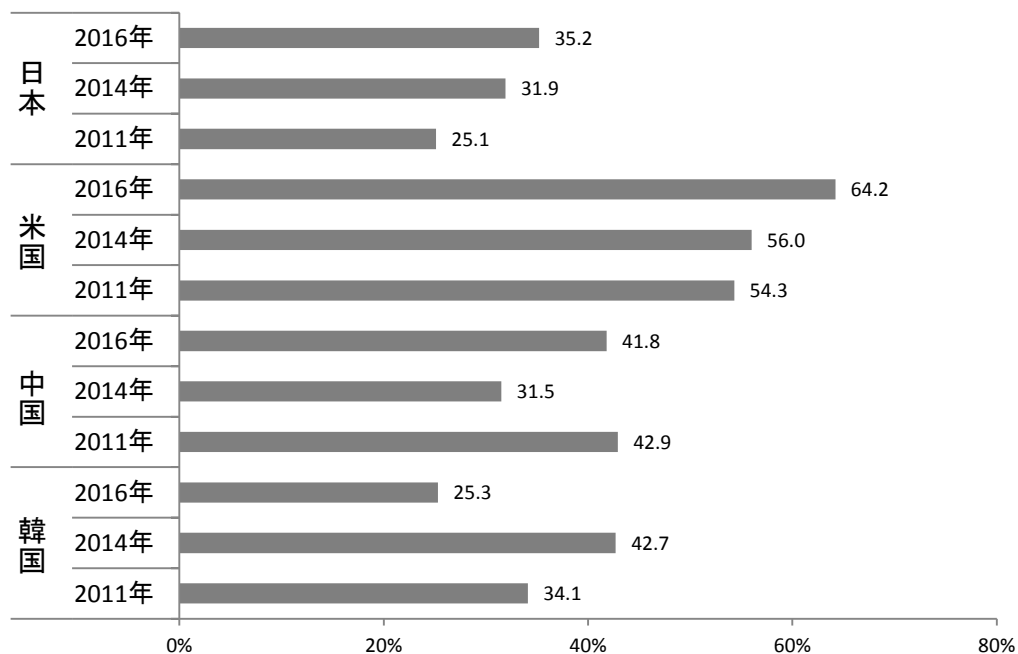


図 36 社会のために役立つ生き方をすること(「とてもそう思う」と回答した者の割合)

* 2011 年:「高校生の生活意識と留学に関する調査」(財団法人日本青少年研究所)

2014 年:「高校生の生活と意識に関する調査」(国立青少年教育振興機構)、以下同様。

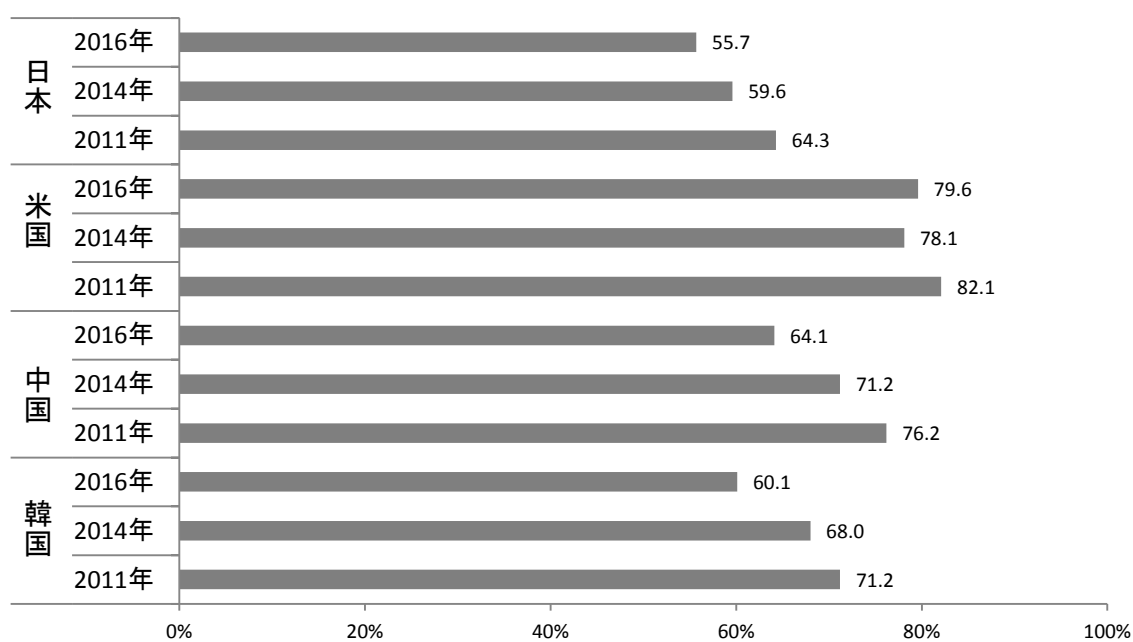


図 37 円満な家庭を築くこと(「とてもそう思う」と回答した者の割合)